

34 混雑する堀川 (明治43年頃)

名古屋は明治20年頃から新しい産業が興り、城下町から産業都市へと変貌し始めた。原料や製品の輸送に堀川は活躍し、行き交う舳や筏が輻輳するようになってきた。



35 熱田湊 (明治40年過)

名古屋港ができるまで、熱田は海運の中心であった。右端の建物は大阪税関支署で明治40年に設置されている。江戸時代からの常夜灯が中央にあり、左端には明治10年に黒川治愿が築いた波止場の先端が見えている



36 名古屋開港 (明治から大正頃)

浅くて大型船が入れない熱田湊に代わる本格的な港の築造が永年の夢であった。明治31年に工事が始まり、40年に海外貿易ができる開港場に指定された。海外や遠隔地から名古屋港に着いた荷は舳に積み替えられて堀川を通り内陸部へと運ばれていった。

